

## (第91回) 歌舞伎「三月大歌舞伎」 3月12日歌舞伎座「夜の部」

アイアン・クラブとして、27年ぶりに歌舞伎夜の部観劇を行ってみました。終演時間が9時過ぎと云う事もあり、ご高齢の方には少々遅過ぎるとの声もあり、果たしてどの位の人数が集まるのか心配ではあったが、結果的には夜の部が42名、マチネー（昼の部）が13名となり、夜の部としては上々の滑り出しであったと感じました。

矢張り最大の見所は代々女形として、歌舞伎界最高と称される坂東玉三郎さんと人気絶頂の片岡仁左衛門さんの二枚看板の出演であったと云えましょう。事実幕間のロビーを見渡すと、ご年配の奥様方の数が圧倒的に多く文字通り玉三郎人気を象徴していた様な雰囲気でした。我々素人は女形と云えば、夢芝居と云う歌で一躍有名になった梅沢富美男さんの姿をTV等で見惚れ惚れとした経験がある位ではないでしょうか。

では夜の部を演目別に簡単にご紹介致します。

## 1. 於染久松色読販 (おそめひさまつ うきなよみうり)

この演目は玉三郎、仁左衛門の両御所の競演で当夜の最大の幕場と云えましょう。作者は多くの名作を出した四世鶴屋南北で、江戸時代が初演と云われます。此の演目は序幕と第二幕に分かれており、序幕は小梅葺屋の場面で、玉三郎扮する”お六”と亭主役の仁左衛門が二人共謀して油屋（二幕の場）大金を巻き上げようと目論む一幕です。第二幕は瓦町油屋の場で、前出玉三郎と仁左衛門が主人の太郎七（坂東彦三郎）から、大金（100両）を巻き上げる事に失敗して退散すると云うストーリーです。この演目では底辺に近い夫婦の生活振りが演出されており、夫婦共に悪に長けているさまは観客に同感与えるのではないのでしょうか。



## 2. 神田祭



この演目も於染久松同様に、玉三郎と仁左衛門の競演ですが江戸では有名な神田明神の祭礼が舞台です。仁左衛門が鳶（とび）の頭役を務め、玉三郎は芸者役として共演、文字通

り歌あり、踊りありの江戸庶民の世界が華やかに演じられ観客席も一体となり楽しめる演目でした。

## 3. 滝の白糸

明治初期の文豪泉鏡花による義血侠血と云う作が、



川上音二郎一座により滝の白糸として初上演されたのが初舞台と云われています。その後代々白糸役には六世歌右衛門や扇雀等が演じその艶を競ってきましたが、昭和48年に玉三郎が初めて白糸役を演じ、以後玉三郎の当たり役としてこの耽美的な舞台を演じて今日に至った様です。

今回の舞台では、玉三郎が初めて演出を行い白糸役には中村壱太郎（かずたろう）が抜擢され、相手役の村越欣也には尾上松也が務めています。ストーリーは、水芸人である白糸が法律家を目指す欣也と出会い爾後学費の援助を行います、白糸の興行人気が陰りをみせ始めやがて金策が原因となり殺人を犯してしまいます。白糸は殺人の容疑者として法廷に立ちますが、その検事が何と白糸が援助を続けていた村越欣也と云う皮肉な場面

となります。欣也は白糸に真実を語る様に説得之に心を動かされた白糸は全てを告白するが、欣也は白糸を起訴すると申し出ますが之を聞いた白糸は自害を図り欣也も法定外で拳銃自殺をするとう一大悲劇の叙事詩です。西洋にもこの種のストーリーがありますが、歌舞伎の世界ではこうした悲劇的な叙事詩は良く上演されます。



を聞いた白糸は自害を図り欣也も法定外で拳銃自殺をするとう一大悲劇の叙事詩です。西洋にもこの種のストーリーがありますが、歌舞伎の世界ではこうした悲劇的な叙事詩は良く上演されます。

以上夜の部の全三幕をご紹介致しました。今回は昼の部でも国性近松門左衛門作による中国を舞台とする国性爺合戦、男女道成寺が上演されており、こちらもきっと見応えのある舞台だったと思います。昼と夜どちらを観劇されるかは、都度演目次第を充分にご検討の上お決めになれば良いのではないのでしょうか。(相田 實・記)